

昭和館館報

平成26年度

口 絵		III 関連情報提供事業	
ごあいさつ	1	1 運用管理	18
フロア構成	2	(1) システム運用管理	18
年間主要行事	3	(2) データベース運用管理	19
平成26年度事業概要		(3) ホームページ運用管理	19
I 展示事業		2 オーラルヒストリーの制作	20
1 常設展示	4	3 海外資料調査の実施	20
(1) 常設展示の概要	4	IV 啓発広報等事業	
(2) 展示替え工事	4	1 広報活動	21
(3) 展示資料の入れ替え	5	(1) 広報資料の作成及び発送	21
2 巡回特別企画展の開催	6	(2) 広報と掲示及び掲載	21
(1) 第25回巡回特別企画展	6	(3) 子ども霞ヶ関見学デー	21
「伝えたい『戦中・戦後』の暮らし」(佐賀展)		(4) 第13回昭和館見学作文	
(2) 第26回巡回特別企画展	6	コンクール	22
「伝えたい『戦中・戦後』の暮らし」(石川展)		(5) 第7回昭和館高校生ポスター	
3 貸出キット	7	コンクール	22
4 紙芝居定期上演会	8	2 「昭和の暮らし研究」の刊行	23
5 教員のための博物館体験	9	3 展示資料の貸出	24
6 実物資料の収集と保存	9	4 昭和館運営専門委員会の開催	25
(1) 実物資料の収集	9	5 昭和館運営有識者会議の開催	25
(2) 実物資料の保存と補修	9	6 インターンシップ	26
(3) 実物資料の貸出実績	10	7 小・中学校用展示案内DVDの配付	26
7 博物館実習	10	8 関係施設等連携会議の開催等	27
II 図書映像資料等閲覧事業	11	V 特別企画展等の開催及び概要	
1 図書文献関係	11	1 「空襲と暮らし	
(1) 運用管理	11	～そのとき、人々は・・・～」	28
① 閲覧室及び書庫の管理	11	2 戦後70年「よみがえる日本の姿	
② レファレンス・サービス		～オーストラリア戦争記念館	
(参考調査業務)	11	所蔵写真展～」	29
③ 利用ガイドの発行	11	3 「昭和の日」記念イベントの開催	31
④ 展示関連図書の公開と参考図書		4 「昭和の東京をたずねる」	32
リストの配付、読書案内	12	5 「春らんまん」	33
⑤ ホームページ	12	6 資料公開コーナー	34
⑥ 蔵書点検	13		
⑦ 利用状況	13		
(2) データ管理	14	参考	
① 収蔵図書のデータ管理	14	1 入場者状況の推移	
② 目次データ入力	14	(平成11年度～26年度)	35
(3) 保存管理	14	2 平成26年度利用者実績	36
(4) 業務研修	15	3 常設展示室入場者数	36
2 映像・音響関係	15	4 来館団体御芳名	37
3 ニュースシアター	15	5 第13回昭和館見学作文コンクール	
4 収蔵資料	16	厚生労働大臣賞受賞作品	38
(1) 図書資料の収蔵状況	16	6 第7回昭和館高校生ポスター	
(2) 映像・音響資料の収蔵状況	17	コンクール入賞作品	39
		7 施設概要	40
		8 平成26年度寄贈者御芳名	42

口 絵
外観写真





7階 常設展示室入口のトリックアート



7階 常設展示室「空襲被害地図」



6階 常設展示室「体験コーナー」



5階 映像・音響室



4階 図書室



1階 昭和館懐かしのニュースシアター
紙芝居定期上演会 (奇数月第4週日曜日)



特別企画展

「空襲とくらし～そのとき、人々は・・・～」
 (平成26年7月26日～8月31日)

昭和館特別企画展
 戦後70年 **よみがえる日本の姿**
 オーストラリア戦争記念館 所蔵写真展

平成27年**3月21日(土)**▶**5月10日(日)**
 開催時間 10:00▶17:30 (入館は17:00まで)
 休館日 毎週月曜日 (5月4日は開館)
 後援 外務省 オーストラリア大使館

子どもたちと兵隊兵隊員たち、1945年 昭和20年 10月27日

エビス・キャンプでのクリスマスパーティーの様子、昭和30年(1955)12月

飛行場で遊ぶ子どもたち、東京 昭和20年(1945)11月頃

40年経っても多く笑顔を湛えた、昭和30年(1955)11月11日



巡回特別企画展 平成26年10月1日～10月19日 (佐賀展)
伝えたい「戦中・戦後」の暮らし
佐賀県立博物館 3号展示室



巡回特別企画展 平成26年11月29日～12月7日 (石川展)
伝えたい「戦中・戦後」の暮らし
金沢市文化ホール 展示ギャラリー

ご あ い さ つ



昭和館は、国民が経験した戦中・戦後（昭和10年頃から昭和30年頃まで）の衣・食・住を中心とした国民生活上の労苦を次の世代の人々に伝える国立の施設として、今年で17年目を迎えます。

平成11年に設立以来、年度ごとの入館者数は平成19年度の315,724人がこれまででは最も多い入館者数でありましたが、平成26年度は370,311人の方々に来館いただき、開館以来の年度毎の入館者数としては最も多い年度となりました。これも、ひとえに関係各位の御支援・御協力の賜物であり、心より御礼申し上げます。

ここに、平成26年度の活動状況を取りまとめましたので御高覧いただければ幸いです。

なお、本年は戦後70年にあたることから、1月に体験広場の充実や7階エレベーター前に終戦前の国会議事堂周辺の様子をトリックアートの手法で再現する等の展示替えを実施するなどの取り組みを行っています。

また、しょうけい館・平和祈念展示資料館との連携事業も3年目を迎えて、本年、初めて日比谷図書文化館で3館合同で展示会と講演会を開催する他、長野県、和歌山県で3館による講演会を予定しています。

終わりに、今後とも次の世代、特に若い世代に戦中・戦後の労苦を継承していくため、各種資料の収集充実に努め、様々な観点からの企画展の開催と種々な情報提供等が出来るよう、魅力ある運営に励んで参りますので、一層の御支援、御鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

平成27年7月

昭和館

館長 羽毛田 信吾

フロア構成

常設展示室（入口）

7階

常設展示室（出口）

6階

映像・音響室

5階

図書室

4階

研修室・会議室

3階

広場

2階

ニュースシアター・受付・総合案内

1階

資料収蔵室

地下1階

設備管理室

地下2階

年間主要行事

平成26年	
3月15日～ 5月11日	特別企画展を開催 「夢と希望と困難と～昭和の働く女性～」
3月21日～ 4月13日	写真展を開催 「さくら満開－絵はがきと写真に見る－」
4月26日～ 5月 2日	「昭和の日」記念イベントを開催
5月25日～	紙芝居定期上演会（隔奇数月第4日曜日に開催）
6月20日	平成26年度第1回昭和館運営専門委員会を開催
6月23日～ 6月25日	常設展示室の資料交換を実施（休室）
6月27日	第5回関係施設等連携会議を開催
7月19日～ 8月31日	「夏休み3館めぐりスタンプラリー」
7月26日～ 8月31日	特別企画展を開催 「空襲と暮らし～そのとき、人々は・・・～」
8月 1日、 8月21日	教員のための博物館体験
8月 6日～ 8月 7日	「子ども霞ヶ関見学デー」
10月 1日～10月19日	巡回特別企画展を開催（佐賀県にて） 「伝えたい『戦中・戦後』の暮らし」
10月11日～12月23日	写真展を開催 「昭和の東京をたずねる」
11月29日～12月 7日	巡回特別企画展を開催（石川県にて） 「伝えたい『戦中・戦後』の暮らし」
平成27年	
1月 6日～ 1月19日	常設展示室の資料交換を実施（休室）
1月30日	第6回関係施設連携会議を開催
2月25日	平成26年度第2回昭和館運営専門委員会を開催
3月 1日～ 3月 9日	映像・音響室の資料整理を実施（休室）
3月 1日～ 3月14日	図書室の資料整理を実施（休室）
3月 1日	紀要『昭和の暮らし研究』（第13号）を刊行
3月20日	第14回昭和館運営有識者会議を開催
3月21日～ 5月10日	特別企画展を開催 戦後70年「よみがえる日本の姿～オーストラリア戦争記念館 所蔵写真展～」
3月21日～ 4月19日	写真展を開催 「春らんまん」

平成26年度事業概要

I 展示事業

展示事業では、戦中・戦後の国民生活上の労苦を伝える実物資料等の常設展示を行うとともに、関連する資料の収集、保存、管理を行っている。

また、特別企画展や巡回特別企画展等の事業を開催した。

(「V 特別企画展等の開催及び概要」参照)

1 常設展示

(1) 常設展示の概要

7階及び6階の常設展示室においては、多くの国民が経験した戦中・戦後の国民生活上の労苦を後世代に伝えるための展示を行っている。

7階では、戦争が激しくなる少し前の昭和10年(1935)頃から、昭和20年(1945)8月15日までの戦中の暮らしを、6階では終戦から『経済白書』に「もはや戦後ではない」と記された昭和30年(1955)頃までの戦後の暮らしを、それぞれ多くの実物資料とともに写真・映像資料、図解資料等を併せて展示し紹介している。

(2) 展示替え工事

平成25年度及び26年度の2ヶ年で、第6回常設展示室展示替え工事の計画等を行い、設置工事を平成27年1月6日(火)から18日(日)にかけて実施した。

展示替え内容

コーナー名	展示替え前	展示替え後
1 改修事業 (1) ソフト改修		
(ア)「空襲被害地図」	パネル「空襲被害地図」において、全国の被害状況を図示していた。	パソコンを導入することで様々な情報を提供できるようにし、各地の被害状況や写真、戦災概況図が表示できるようにした。

(イ)「和男君の防空探検」	家屋の中で、一部入れない部屋があった。	操作性を向上させるためにパソコンソフトの改修を行い、「台所」「防空壕」など和男君が行動できる範囲を広げた。
(ウ)「バーチャルこれなあに？」	資料点数を10点追加した。合計30点の資料の紹介とした。	
(エ)「調べてみよう」 (所蔵データベース)	トラックボールでの操作に、慣れない方がいた。	タッチパネル方式を導入することにより画面の操作、画像の拡大縮小がスムーズになった。
(オ) 各ブースの情報提供端末	「ニュース映画」のみ公開していた。	「ニュース映画」に加え「展示解説」「主な展示資料」「用語解説」の情報を詳しく閲覧できるようにした。
(2) 展示方法の改修		
防空壕体験コーナー	臨場感が不足との意見があった。また防空壕の構造がわかりにくかった。	B29の大型写真を防空壕の上に展示することで、より臨場感のある演出を行った。防空壕の俯瞰図を追加し、構造をわかりやすく説明した。
2 新規事業		
(1) 体験ひろば 米つき体験	配給された玄米を家庭で精米する作業について学ぶコーナーを設けた。実際に、ガラス瓶に差した棒を上下させる体験をしながら、映像を通してどれだけの玄米がどのくらいの時間で精米できたかなどを学べるようにした。	
(2) 7階エレベータ前	来館者が戦中にタイムスリップしたようなインパクトを与えるため、国会議事堂周辺の焼け跡をトリックアートを用いて表現した。	

(3) 展示資料の入れ替え

長期展示による資料の劣化を避け、また、できるだけ多くの方々からの寄贈資料を紹介するため例年2回、1月と6月に展示資料の入れ替えを行っている。平成26年度は6月23日(月)から25日(水)と、展示替え工事の期間に実施した。

2 巡回特別企画展の開催

遠方に在住する方々の便宜を考慮し、さらに幅広い広報活動の一環として、年2回の巡回特別企画展を開催している。

平成26年度は、次の通り実施した。

(1) 第25回巡回特別企画展

「伝えたい『戦中・戦後』の暮らし」(佐賀展)

開催期間：平成26年10月1日(水)～10月19日(日)
会場：佐賀県立博物館 3号展示室
協賛：日本遺族会第五ブロック(佐賀県遺族連合会ほか)
後援：佐賀県 佐賀県教育委員会 佐賀市 佐賀市教育委員会 佐賀新聞社 NHK佐賀放送局 STS サガテレビ ぶんぶんテレビエフエム佐賀 NBC ラジオ佐賀
来場者数：6,616人(約389人/1日)

(2) 第26回巡回特別企画展

「伝えたい『戦中・戦後』の暮らし(石川展)

開催期間：平成26年11月29日(土)～12月7日(日)
会場：金沢市文化ホール 展示ギャラリー
協賛：一般財団法人石川県遺族連合会
後援：石川県 石川県教育委員会 金沢市 金沢市教育委員会 北國新聞社 NHK金沢放送局 テレビ金沢 北陸放送、 金沢ケーブルテレビネット エフエム石川 ラジオかなざわ
入場者数：2,484人(約276人/1日)

多古町立多古第二小学校/富津市立青堀小学校/横浜市立不動丸小学校/香取市立山倉小学校/
横浜市立北綱島小学校/江東区立東雲小学校/船橋市立咲が丘小学校/墨田区立中川小学校/
東京都立総合工科高等学校

(地方自治体) 16自治体

横須賀市/川口市役所/大田区立下丸子図書館/宇都宮市立南図書館指定管理共同体/
八王子市/東京都北区役所/佐賀市総務部総務法制課/三重県三重郡菰野町役場総務課/
羽村市企画総務部企画政策課/台東区総務課/姫路市立下構総合センター/
八潮市役所まちづくり企画部人権・男女共同参画課/姫路市林田地区連合自治会/
愛知県犬山市健康福祉部福祉課/鹿児島県保健福祉部社会福祉課/
千代田区国際平和・男女平等人権課

(一般団体) 10団体

綾瀬市遺族会/雲南市遺族会/国民学校と集団疎開を考える会/愛川町遺族会/
平和フェスティバル実行委員会/静岡県浜松市雄踏町遺族会/特別養護老人ホーム東山/
品川区立大井山中小学校クラス会・米寿祝会/国民学校と集団疎開を考える会/
国民学校と学童疎開を考える会

4 紙芝居定期上演会

当館が所蔵する紙芝居とワークショップの要素を取り入れた体験型の上映会を、紙芝居師の梅田佳声氏ほかの演者により実施した。

なお、入場者の状況は以下の通りである。

上 演	月	入 場 者
平成26年	5月	152人
	7月	149人
	9月	90人
	11月	133人
平成27年	1月	118人
	3月	104人
合 計		746人

5 教員のための博物館体験

学校と博物館の連携を図ることを目的に、小・中高校の教職員を対象とした博物館体験の日を実施した。

開催日：平成26年8月 1日（金）10：00～12：30

8月21日（木）10：00～12：30

14：00～16：00

内 容：博物館が所蔵する学習資源を知り、学校教育に活用されるよう館内施設の見学や貸出キットの利用体験を行った。

参加者： 1日午前 小学校教諭8名、中学校教諭2名 計10名

21日午前 小学校教諭5名、中学校教諭2名 計 7名

午後 小学校教諭3名、中学校教諭2名、
高等学校教諭1名 計 6名

6 実物資料の収集と保存

(1) 実物資料の収集

平成26年度における実物資料の収集は、主に個人からの寄贈によるもの1,323点、購入によるもの722点であった。

収蔵資料数は次表の通りである（平成27年3月末現在）

寄 贈 資 料	35,802点
購 入 資 料	12,345点
厚生労働省からの無償貸付資料	3,243点
合 計	51,390点

(2) 実物資料の保存と補修

平成26年度末までに収集した実物資料は、全て燻蒸処理を行い、整理、分類した上、地下1階の資料収蔵室で保管を行っている。

なお、破損・汚損の激しい紙製資料等約30点に対して補修を行った。

(3) 実物資料の貸出実績

平成26年度における館外への資料貸出は、2件40点であった。

- ・東京ステーションギャラリー（公益法人東日本鉄道文化財団）
木版画「都市礼賛（東京駅）」他、計4点
- ・城西国際大学水田美術館
「昭和大東京百図絵版画」 計36点

7 博物館実習

実習期間：平成26年8月9日（土）～8月15日（金）

実習生：2名（一橋大学大学院、昭和女子大学）

実習内容：施設見学、収蔵庫清掃、実物資料整理作業（計測・台帳記載等）、
記録写真の整理、特別企画展におけるイベントの補助業務等

Ⅱ 図書映像資料等閲覧事業

1 図書文献関係

(1) 運用管理

① 閲覧室及び書庫の管理

4階図書室では、収集した戦中・戦後の国民生活に関する文献や戦争に関する基本図書・雑誌・地図等を閲覧に供している。

閲覧室には座席30席のほか、所蔵資料や『戦史叢書・陸海軍部隊略歴検索システム』等のデジタル情報及び『文藝春秋』等の雑誌データベースが閲覧できる端末を6台設置し、タッチパネルとキーボードの両方で使えるようにしている。また国内の類似施設情報が閲覧できる端末1台を設置し、来館者の利用に供している。

利用頻度が高い基本図書や総合的な内容をもつ図書を中心に開架図書とし、利用状況に応じて随時調整している。

今年度は図書紹介用什器（ハングオール）を設け、図書紹介のスペースを増やした。図書室のレイアウトを一部変更し、閲覧スペースを増やすとともに、開架書架2台と雑誌架1台を増設した。これにより開架図書を約700冊増やした（現在約4,500点を配架）。

閉架図書は比較的使用頻度の高いものは4階書庫、その他は地下書庫に収蔵し、劣化の激しい図書は保管庫で別置保存している。

閲覧室入口付近の展示ケースでは寄贈図書の一部を随時紹介している。

② レファレンス・サービス（参考調査業務）

平成26年度のレファレンス・サービスは584件、1日平均約2件で、特に8月の夏休み期間に多かった。レファレンスの内容は書籍の所蔵確認だけではなく、考証に関するものが多かった。

レファレンスの内容は随時蓄積し、利用ガイドなどに反映させるよう努めている。

③ 利用ガイドの発行

レファレンスの内容に基づいて利用・検索の方法や、所蔵図書を紹介する「ぶらりらいぶらりい」を毎月発行し希望者に配布している。

検索システムの変更や提供資料の追加（海図）等にともない、図書室の利用ガイド内容を修正し、利用者に配付した。

④ 展示関連図書の公開と参考図書リストの配布、読書案内

来館者が特別企画展などの展示内容についてより一層理解が深められるよう、展示テーマに即した図書・雑誌を閲覧室内に展示し、気軽に手にして閲覧できるコーナーを設けている。

図書室においては、継続企画として「昭和のベストセラー」の紹介を継続したほか、大人から子どもまでを対象に、その都度、話題になっている事柄に関連する図書などを「図書室員が読んだ本」のコーナーで紹介した。今年度は「村岡花子」「江戸川乱歩（生誕100年・没後50年）」を取り上げた。

平成26年度は夏と春の特別企画展及び資料公開コーナーでの展示内容などに関連した図書・雑誌の公開を行った。

7月19日（土）から9月7日（日）まで、小学校高学年から中学生を対象に、「夏休み宿題・研究資料リスト」を作成して希望者に配布するとともに、ホームページにも同リストを掲載し、利用の便を図った。また、同期間、小学生を対象にした「夏休みワークシート」では、「空襲」をテーマにして作成し、前年度までに作成した「学童疎開」「学校生活」とあわせて配布し、調べ学習の実践を推進した。

平成27年1月20日（水）より2月28日（日）の間、平和祈念展示資料館が九段生涯学習館にて開催した「シベリア抑留を描く―二人の画家展」に関連して、シベリア抑留関係資料のコーナーを設けるなど、館内外との協力・連携をはかった。

⑤ ホームページ

図書室の紹介ページでは、開架図書を書架ごとに紹介するとともに、閲覧室内で紹介している資料を入れ替えごとに掲載し利用を促している。

「ぶらりらいぶらりい」を定期的に更新しているほか、「本に関するお問い合わせ」では、利用者からのレファレンス等を随時受け付けた。

資料募集のお知らせを掲載し、広く資料の寄贈を呼びかけている。

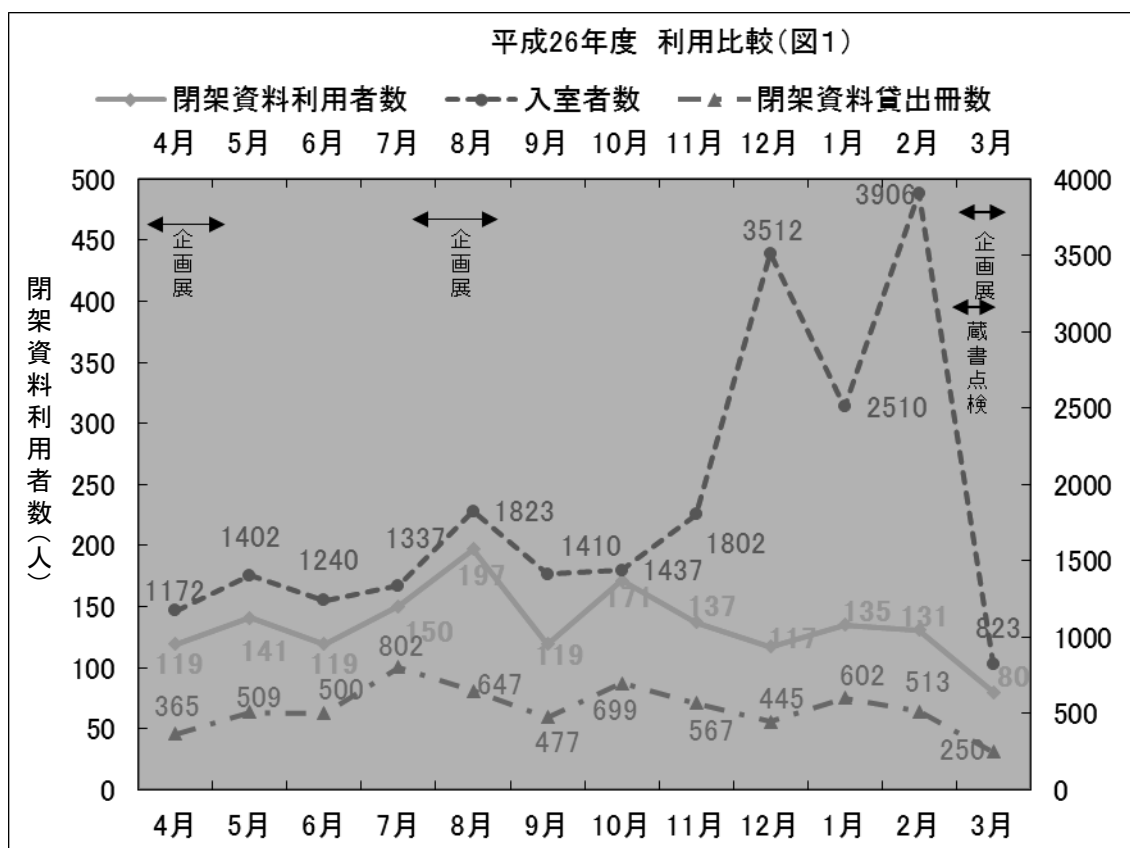
蔵書検索ページは、毎月データを更新し、館外からも検索できるようにしている。蔵書検索は、横断検索もできるほか、タイトルや著者名、フリーワードでの検索などさまざまな方面からできるようにしている。あわせて、過去のレファレンス事例もキーワードで検索して見ることができるようにしている。

⑥ 蔵書点検

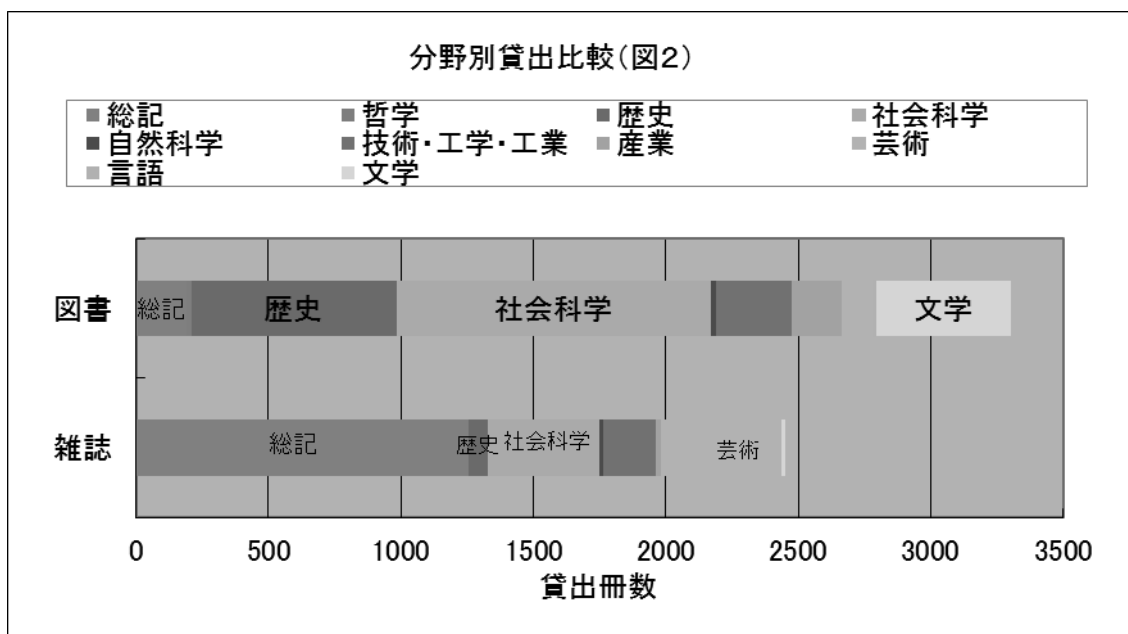
平成27年3月1日（日）から3月14日（土）までの14日間、図書室を休室にし、蔵書点検を実施した。開架図書及び閉架図書を重点的に点検し、破損が著しい図書の修理や製本を行った。また、図書・雑誌の和書資料の増加にともない、蔵書の移動を行った。

⑦ 利用状況

平成26年度の図書室入室者及び閉架利用状況（月ごとの変遷）は図1、閉架資料の分野別貸出状況は図2のとおりであった。



- ・ 図書室入室者数の1日平均は75名前後であった。
- ・ 図書室入室者数を月別で見ると、12月から2月にかけて小中学生の利用者が非常に多く、次いで夏期の特別企画展開催中の8月が多い。
- ・ 閉架図書の利用者数は8月が最も多く、次いで10月となっている。利用冊数は7月が最も多く、次いで8月となっている。



※「総記」とは、週刊誌及び娯楽誌など一般雑誌のことをいう。

- ・図書の利用では社会科学と歴史分野の利用が多く、次いで文学が多かった。
- ・社会科学分野の内訳としては、戦争関連の基本的資料、軍事・部隊史関係に加え、戦前から戦後の教科書類の利用が多かった。
- ・文学の内訳としては、体験記録・手記の利用が多かった。
- ・雑誌は例年どおり「総記」の利用が目立ち、少年少女、女性向け雑誌の利用が突出している。

(2) データ管理

① 収蔵図書のデータ管理

収蔵図書の書誌・所蔵データは随時点検、追加入力および修正作業を進めている。平成26年度は1,704冊の書誌データの入力と装備を行った。

② 目次データ入力

図書検索システムでは、図書の書誌・所蔵データの他に目次データも入力し、目次を含めた情報を検索対象として「ことば」検索に役立たせている。平成26年度は1,704件の目次データ入力を行った。

(3) 保存管理

資料の劣化に加え、閲覧やコピー利用による破損も増えつつあり、平成26年度は43冊の製本及び合本をし、233冊の破損本を修理した。

なお、劣化が激しく合本できない雑誌については中性紙保存箱で保存している。

(4) 業務研修

資料収集・整理・保存管理、情報提供など図書館を取り巻く問題は、常に変化している。図書館業界や類似施設についての状況を把握し、今後の図書室の運営に反映させていくことを目的に職員業務研修に参加した。平成26年度は、日本図書館協会主催の第100回全国図書館大会（10月31日～11月1日開催：於 明治大学）、国立国会図書館が主催する「平成26年度資料保存研修」（平成26年10月23日開催：於 国立国会図書館）などに出席し、業務の向上と他館との情報交換に努めた。

2 映像・音響関係

5階映像・音響室では、戦中・戦後の国民生活に関する映像・音響資料等について、検索端末を通して来館者へ提供している。検索端末15台を設置し、うち2台は多人数で同時に利用が可能な団体専用ブース、1台は当館類似施設の各ウェブサイトを紹介する専用端末、12台は映像・音響資料を検索する端末となっている。

上記の運用のほかに、パソコン操作が得意でない来館者も利用できることを目的に、「国民生活」「トピックス・著名人の顔」「スポーツ」「世間を騒がせた出来事」のニュース映画を簡単に閲覧できる検索コーナーやSPレコードの一部を試聴できるコーナー（今年度は「村岡花子」を特集した）を設け、その順調な運用に努めている。

平成26年度からは、国立国会図書館が提供している「歴史的音源」というSPレコード約5万曲を公開しているサイトにアクセスできるようにし、試聴が可能となった。

3 ニュースシアター

戦前から戦後のニュース映画を毎週4作品ずつ選定して毎日上映する「昭和館懐かしのニュースシアター」は、平成26年度において196作品を上映し、多くの来館者から好評を得ている。

4月26日（土）から5月9日（金）にかけて「昭和の日」の記念事業として、昭和館オリジナル作品「私たちは疎開に行った一戦時下の子どもたち」を通常の上映に加えて特別上映したほか、平成27年1月27日（火）から2月2日（月）にかけて平和祈念展示資料館が九段生涯学習会館において「シベリア

抑留を描く－2人の画家展 Vol.2－」を開催したのにもない、シベリア抑留者の帰国関係のニュースが盛り込まれているニュース映画を特集して上映した。

4 収蔵資料

(1) 図書資料の収蔵状況

平成26年度は、前年度に引き続いて、戦中・戦後の国民生活に関する図書・雑誌をはじめ、写真集や少年少女雑誌・児童向け図書などを中心に収集した。収蔵概数は次表の通りである。(平成27年3月末現在)

国民生活関係図書	53,427冊
戦争に関する基本的図書	18,410冊
独自資料	35,980冊
その他基本図書	11,340冊
合計	119,157冊

<平成26年度の主な受入資料の内訳>

○ 国民生活関係	2,043冊
・ 当時刊行された雑誌類や生活体験記等 『決定版 東京空襲写真集』 『ザ・クロニクル戦後日本の70年』 『建物疎開と都市防空』 『大政翼賛会会報』等	
○ 戦争に関する基本的図書	353冊
・ 太平洋戦争関連の基本文献、部隊史、戦争関連の体験記等 『海軍将校たちの太平洋戦争』 『地域の中の軍隊』 『太平洋戦争開戦過程の研究』 『推進員の活動状況』等	
○ その他	218冊
・ 寄贈を受けた各類似施設の刊行物等 『国立歴史民俗博物館研究報告』『東京都江戸東京博物館紀要』等	
・ 定期購読誌 『文藝春秋』『中央公論』『新潮45』『正論』『丸』等	

(2) 映像・音響資料の収蔵状況

利用者が検索システムを利用して閲覧できる映像・音響資料の収集を進めている。収蔵数は次表の通りである。(平成27年3月末現在)

○ 動画資料 (ムービー)	
・ 米国資料館から入手	1,034 作品
・ 米国個人から入手	36 作品
・ 豪州国資料館から入手	26 作品
・ 英国から入手	5 作品
・ 国内で入手	2,281 作品
合 計	3,382 作品
○ 静止画資料 (写真)	
・ 米国資料館から入手	6,120 枚
・ 米国個人から入手	2,281 枚
・ 豪州国資料館から入手	386 枚
・ 英国から入手	233 枚
・ 国内で入手	36,913 枚
合 計	45,933 枚
○ 音響資料 (SPレコード)	
・ 国内で入手	8,445 枚
・ 寄託資料	約 35,000 枚
合 計	約 43,445 枚

<平成26年度の主な受入資料の内訳>

○ 資料の購入	
・ 記録写真	
F・D・ルーズベルト大統領図書館記録写真	24点
同盟写真ニュース	110点
読売ニュース	17点
マッカーサー記念館記録写真	85点
・ 記録映像	
日本ニュース	28作品
○ 資料の寄贈	
・ 記録写真	426枚
・ 記録フィルム	2作品
・ 音響資料 (SPレコード)	7枚

Ⅲ 関連情報提供事業

関連情報提供事業では、①昭和館が所蔵する図書資料、映像・音響資料の情報、②雑誌資料等をデータベース化した情報、③昭和館類似施設（国内132カ所）の基本情報を、それぞれ来館者が端末で利用できるよう提供している。

特に図書資料については千代田区内の関連施設・大学図書館との横断検索ができるようになっている。

1 運用管理

(1) システム運用管理

来館者に総合データベース（図書雑誌目次情報、静止画（写真）、動画、音響）、個別データベース（戦史叢書・陸海軍部隊略歴、デジタル雑誌など）及び類似施設等の関連情報を提供している。来館者が様々な条件から資料を検索し、閲覧できる方法を採用している。

システム稼働は安定しており、ハードウェア及びデータ損傷等の大きなトラブルはなかった。

平成26年度の各データベースへのアクセスカウントをまとめたのが次表である。アクセス総数は374,313件、月平均約25,530件で、多くの来館者に利用されている。

	写 真	映 像	音 響	図 書	雑 誌	個別 DB	月別合計
平成26年4月	9,868	3,983	3,494	1,929	730	812	20,816
5月	18,210	3,860	3,291	3,260	1,065	496	30,182
6月	8,148	3,852	2,039	1,429	1,387	366	17,221
7月	8,071	4,081	2,749	1,934	761	613	18,209
8月	16,458	6,560	3,485	2,990	2,166	725	32,384
9月	12,792	4,261	2,060	1,342	1,504	403	22,362
10月	22,604	7,764	5,231	2,112	2,035	213	39,959
11月	24,616	9,364	4,919	1,833	1,754	229	42,715
12月	19,323	11,650	5,685	2,445	2,539	514	42,156
平成27年1月	19,519	9,367	5,372	2,284	2,678	232	39,452
2月	17,066	10,890	11,161	4,006	1,753	448	45,324
3月	11,324	4,893	5,595	1,130	480	111	23,533
合 計	187,999	80,525	55,081	26,694	18,852	5,162	374,313

(2) データベース運用管理

来館者閲覧用及び記録資料のデジタル化を進め、以下のデータベースを稼働させている。館内で職員が常に情報追加・更新を行っている総合データベースと、公刊戦史や部隊情報、雑誌をデジタル化した個別データベースに分けることができる。

- 収蔵図書・雑誌目次情報（総合データベース）
収蔵図書や雑誌の書名・著者名・雑誌名等書誌情報のほか、目次を全てテキスト入力しており、「目次情報」からも検索ができるようになっている。
- 収蔵映像・音響資料情報（総合データベース）
収蔵している静止画（写真）、動画及び音響資料（SPレコード）を、タイトルや作曲者名等の資料情報から検索でき、目的の映像または音楽を表示し、また視聴できるようにしている。
平成24年度は、進駐軍として日本に滞在していたオーストラリア軍が昭和20年代に撮影した写真、および昭和10～30年代のニュース映画などを閲覧できるようにした。
- デジタル図書・デジタル雑誌（個別データベース）
昭和館で独自に開発したデータベースで、図書は『大衆文化事典』『日本生活図引』をそれぞれ検索でき、雑誌は『中央公論』『文藝春秋』『婦人公論』『写真週報』『時事年鑑』『放送ニュース解説』『改造』が統合され、データベース化されている（『改造』は作業継続中）。各雑誌間での横断検索をできるようにしている。
- 戦史叢書・陸海軍部隊略歴検索システム（個別データベース）
防衛庁防衛研究所戦史室編纂の『戦史叢書』、厚生省援護局編纂の「部隊略歴簿」「艦船行動調書」等をデータベース化し、横断検索を可能にして、利用の便を高めている。

(3) ホームページ運用管理

開館時から引き続き昭和館ホームページの定期更新を行っている。
平成26年度のアクセス数は次のとおりであった。

・平成26年度	133,775件
・平成26年度月間平均	11,148件
・開館時からの累計	2,208,713件

内「キッズナビ」へのアクセス数

- ・平成26年度 16,012件
- ・平成26年度月間平均 1,335件
- ・平成18年（導入時）からの累計 156,080件

2 オーラルヒストリーの制作

戦中から戦後にかけての労苦を体験された方々の証言を、永く後世に伝えるため、「オーラルヒストリー」の制作を昨年引き続き実施した。

平成26年度は戦没者妻や遺児による戦没者への遺族の想いや、戦中・戦後の苦しかった生活体験などを中心に、学徒動員の体験、母子で外地から引揚げてきた体験など、14名の証言（16作品）の収録を行った。

タイトル	証言者
父の言葉を胸に抱いて	林 信子
学徒動員中の空襲と、戦後の苦労	岡村 千鶴子
戦中・戦後の浜甲子園での暮らし	齋尾 洋子
戦争で家族を亡くし	袖山 八代江
戦死した夫への想い 子どもたちの父への想い	島田 きみ
息子の成長と教え子たちとの交流を心の支えに	平井 昌
引揚者として、遺児として生きる	藤森 坦
満洲から母子5人で引揚げ、そして戦後の労苦	櫻井 眞
和歌山空襲の惨状 戦後は洋裁で身を立てる	小倉 幸代
夫を亡くして 戦中・戦後の労苦	要海 智恵子
兄2人が戦死 遺された家族を支えて	南本 計己
母子4人で満州から引揚げ	吉田 弘子
遺児としての労苦と父の慰霊の旅	吉田 弘子
学徒動員の体験 戦後平和を願って	安藤 士
東京大空襲と疎開先での学徒動員	宝田 正和
戦後GHQで働いて	宝田 正和

3 海外資料調査の実施

平成26年度には、戦後70年の写真展での展示なども視野に、アメリカで、米国立公文書館・ルーズベルト図書館・マッカーサー記念館・ラファイエット大学で映像資料の所在を確認した。今後も、映像・音響室での公開をはじめ、特別企画展や写真展、資料公開コーナーなどでの活用を目的に計画的な資料調査と収集を検討していく。

IV 啓発広報等事業

1 広報活動

(1) 広報資料の作成及び発送

「昭和館館報」については、都道府県、政令都市、東京特別区、教育委員会、老人クラブ連合会、各省庁図書館等に対して送付している。なお、都道府県遺族会、類似施設、大学図書館等には「昭和館館報」と「昭和のくらし研究」を併せて送付し、当館の周知を図っている。

また、昭和館と学校をつなぐ広報誌「昭和館だより」22号を7月に1都3県の小・中学校、小・中・中等教育学校及び小・中学校社会科研究協議会、に発送した。更に東京都内の小学校校長会等の協力を得て、1市12区の生徒に配付する等、来館の促進を図った。

なお、全国の小・中学校に対しては2月に「昭和館だより」23号を送付し当館の周知を図ることに努めた。

(2) 広報と掲示及び掲載

当館の事業内容のPRのために、九段下駅4出口、東西線ホーム、半蔵門線ホームに電飾掲示板を設置して、事業内容のPR活動をしている。

また、特別企画展開催等の際には、都営新宿線の車内に、窓上ポスターを掲示したり、九段郵便局等にポスターを掲示する等PRに努めている。

なお、郵便局の利活用については、巡回特別企画展においても行っている。さらに、毎月発行される沿線だより、都営地下鉄「いっとく」、東京メトロ「ちか旅」、及び複数のガイドブック、月2回発行される千代田区区報等に当館の紹介記事を掲載している。

その他、全私学新聞と月刊教育旅行に広報記事を掲載している。

(3) 子ども霞ヶ関見学デー

文部科学省主催で開催している「子ども霞ヶ関見学デー」が各省庁を会場として開催された。厚生労働省社会・援護局の企画として「体験しよう！戦中・戦後の暮らし」のタイトルで、出張展示を行った。

昭和館では、「貸出キット」及び雑誌資料・写真映像資料等を展示した。

- ・開催期間 平成26年8月6日(水)～7日(木)
- ・会場 厚生労働省 講堂
- ・来場者数 670人

(4) 第13回昭和館見学作文コンクール

昭和館および巡回特別企画展を見学した小中学生を対象に、見学作文コンクールを実施した。9校の小学校（6年生）と、個人4名（小学3年生～中学1年生）の合計578作品の応募があった。

審査の結果、高崎市立鼻高小学校6年生の高橋和音さんの作品が厚生労働大臣賞（別掲）に、葛飾区立新宿小学校6年生の岡田夏歩さんの作品が昭和館館長賞に選ばれた。

(5) 第7回昭和館高校生ポスターコンクール

高校生を対象に、昭和館に対する周知と理解を広め、多くの方の来館及びホーム・ページの閲覧を得ることを目的として「第7回昭和館高校生ポスターコンクール」を実施した。全国の高等学校にチラシを送付する等して募集したところ、合計266作品の応募があった。

審査の結果、兵庫県立明石高等学校 太田 琴さんの作品が最優秀賞に（別掲）、優秀賞（別掲）に7作品、佳作に12作品が選ばれた。

作文コンクール

ポスターコンクール

2 『昭和のくらし研究』の刊行

昭和館の設立趣旨である「戦中・戦後の国民生活上の労苦を次の世代に伝える」事業の一環として、紀要『昭和のくらし研究』第13号（戦後70年特集）を平成27年3月に刊行した。（平成15年度から年1回刊行）

目次は次の通りである。

『昭和館のくらし研究』第13号 目次

口 絵

戦時下の世間話—怪談より怖い笑い話が持つ意味—・・・今井 秀和

荒木貞夫と陸軍省新聞班制作トーキー「三月十日」・・・林 美和

戦時下の東京と人びとの暮らし

—空襲下の街の表情と「隣組」生活

・・・昭和館図書情報部 松尾 公就

資料紹介 ある洋画家の足跡—川名廣喜旧蔵資料・・・昭和館学芸部

昭和館所蔵 学童疎開関係資料（手記・体験談）

目録（一）—東京都分・・・昭和館図書情報部 佐藤 綾子



昭和のくらし研究第13号

3 展示資料の貸出

- 「オリンピックに見る戦争と平和」
 - ・開催期間 平成26年7月19日～8月24日
 - ・会場 新宿区立鶴巻図書館
 - ・貸出資料 写真画像5点、映像資料3点

- 「今に伝える戦争と家族の絆」
 - ・開催期間 平成26年7月19日～7月23日
 - ・会場 川口市中央図書館・メディアセブン
 - ・貸出資料 写真画像3点

- 「太平洋戦争と若者たち」
 - ・開催期間 ① 平成26年 8月 1日～ 8月31日
② 平成26年 9月 2日～ 9月11日
③ 平成26年 9月12日～ 9月26日
④ 平成26年 9月27日～10月 8日
⑤ 平成26年10月 9日～10月21日
⑥ 平成26年 9月 2日～12月15日
 - ・会場 ① 世田谷区立教育センター
② 粕谷区民センター
③ 尾山台地区会館
④ 北沢タウンホール
⑤ 祖師谷まちづくりセンター
⑥ 世田谷区内中学校
 - ・貸出資料 写真画像4点

- 常設展示室
 - ・開催期間 平成27年4月～（約10年間）
 - ・会場 公益財団法人大阪国際平和センター
 - ・貸出資料 写真画像1点

- 「松戸市平和祈念展」
 - ・開催期間 平成27年7月18日～9月23日
 - ・会場 松戸市立博物館
 - ・貸出資料 映像資料2点

○ 「にほんのうたと鉄道展 ～唱歌からはやり歌まで～」

- ・開催期間 平成26年8月5日～11月24日
- ・会場 旧新橋停車場 鉄道歴史展示室
- ・貸出資料 音源資料4点

○ 「蘇るSPレコード」

- ・開催期間 平成26年10月26日
- ・会場 昭和小もちゃ館
- ・貸出資料 音源資料10点

○ 展示パネル

- ・開催期間 平成26年10月5日～
- ・会場 徳島県戦没者記念館
- ・貸出資料 写真画像1点

4 昭和館運営専門委員会の開催

昭和館の事業計画の策定、事業の運営等に当たっては、開館以来「昭和館運営専門委員会」を年2回開催し、同委員会の意見を踏まえ、事業の充実推進を図っている。

昭和館運営専門委員会 委員名簿

(平成27年3月31日現在。50音順、敬称略)

委員長	宮 脇 岑 生	(元国立国会図書館副館長)
委員	赤 木 完 爾	(慶應義塾大学教授)
〃	上 野 憲 示	(文星芸術大学学長)
〃	加 納 正 弘	(元厚生省大臣官房審議官)
〃	北 原 進	(立正大学名誉教授)
〃	坂 本 正 彦	(世田谷区立経堂小学校校長)
〃	鈴 木 淳	(東京大学教授)
〃	花 輪 隆 昭	(元昭和館館長)
〃	松 井 かおる	(江戸東京たてもの園学芸員)

5 昭和館運営有識者会議の開催

昭和館の運営について、幅広い視野からの意見を得ながら、公正かつ中立的な運営を確保するため、平成15年4月から厚生労働省社会・援護局に「昭和館運営有識者会議」を設置し、これまでに13回にわたり委員会を開催し、

昭和館運営事業の計画概要の意見交換を行っている。

昭和館運営有識者会議委員会 委員名簿

(平成27年3月31日現在。順不同・敬称略)

委員長	坂 卷 熙	(淑徳大学名誉教授)
委員	佐 藤 俊 一	(豊島区立千川中学校教諭)
〃	波多野 澄 雄	(筑波大学附属図書館長)
〃	南 砂	(読売新聞社編成局編集委員)
〃	岸 本 葉 子	(エッセイスト)
〃	池 田 維	(公益財団法人交流協会顧問)
〃	國 松 善 次	(一般財団法人滋賀県遺族会顧問)
〃	多 田 宏	(一般社団法人シルバーサービス振興会理事長)

6 インターンシップ

飯田橋公共職業安定所（ハローワーク飯田橋）からの依頼により、高校生の職業意識の形成を目的とする「ジュニア・インターンシップ（就業体験）」を実施し、6月10日（火）～13日（金）まで京華商業高等学校1名、7月23日（水）～25日（金）まで神田女学園高等学校1名、8月27日（水）～29日（金）まで東洋高等学校7名を受入れ、職員の指導の下、当館の業務を体験させた。

7 小・中学校用展示案内DVDの配布

小・中学校等の社会科見学及び修学旅行等の機会を据え、来館促進を一層図るため、当館の事業内容をわかりやすく説明した展示案内DVDを見学予定の希望校に配布しており、平成26年度は58校に配布した。



展示案内DVD

8 関係施設等連携会議の開催等

関係施設等連携会議（昭和館事務局）を年2回開催し、平和祈念展示資料館、しょうけい館との3館の連携に取り組んでいる。

〔 関係機関：厚生労働省援護企画課、総務省特別基金事業推進室
平和祈念展示資料館、しょうけい館、昭和館 〕

- (1) 「夏休み3館めぐりスタンプラリー」実施
開催期間：平成26年7月19日（土）～8月31日（日）
参加者数：3,756人

- (2) 移動教室「シベリア抑留を描く二人の画家展 VOL.2」を開催
開催期間：平成27年1月27日（火）～2月2日（月）
主 催：平和祈念展示資料館
協 力：昭和館、しょうけい館
昭和館では、同時期にシベリア等、引き揚げに関する映像の特別上映を行った。

- (3) 巡回特別企画展の相互協力
 - ・佐賀県における巡回特別企画展においては、始めて平和祈念展示資料館と同時期、同一施設で開催し、連携の強化に努めた。

 - ・石川県においては、ブースを設けて、平和祈念展示資料館、しょうけい館の紹介パネルとポスターを掲示する等の連携を図った。

V 特別企画展等の開催及び概要

昭和館では、多岐にわたる「戦中・戦後の国民生活上の労苦」を次の世代に伝えるため、常設展示とは違った視点や内容で、特別企画展等を開催している。

1 特別企画展

「空襲とくらし～そのとき、人々は・・・～」

空襲による被害を少なくするための様々な準備や工夫、疎開制度をはじめ、想定以上だった実際の空襲被害などを、実物資料や写真、手記などを通して紹介した。

開催期間：平成26年7月26日（土）～8月31日（日）

会 場：昭和館3階 特別企画展会場

<展示構成>

プロローグ 防空意識のめばえ

I 空襲への備え

1. 防空法と防空組織
2. 実施された「防空」
3. 家庭防空の備え

II 疎開への転換

1. 建築物の疎開
2. 人員の疎開
3. 様々な疎開

III 空襲、そして終戦

1. 防ぎきれなかった空襲
2. 戦後の混乱と焼け跡への帰宅

IV エピローグ 後世に語り継ぐ

来場者数：15,306人
(約478人／1日)



<イベント>

- 1 「学芸員による展示解説」 特別企画展開場
期 日：8月2日（土）、30日（土）
会 場：特別企画展会場
参加者数：72人

- 2 「戦中・戦後の体験を伝える会」
期 日：8月10日（日）
会 場：1階ニュースシアター会場
参加者数：85人

- 3 「親子で学ぶ防空体験教室」
期 日：8月2日（土）、30日（土）
会 場：2階体験ひろば
参加者数：72人

2 特別企画展

戦後70年「よみがえる日本の姿～オーストラリア戦争記念館 所蔵写真展～」

当館では、平成24年度にオーストラリア戦争記念館(AWM)の資料調査を実施し、写真・映像資料の購入を行った。これらの資料は、終戦直後に広島(主に呉市)に駐留し、東京に分区(エビス・キャンプ)を持っていた英連邦軍によって撮影されたもので、当時の人々の生活の様子を伝える貴重な資料である。

本展では、これらの写真や映像資料を焼け跡、街並み・人々の生活、子どもたちの様子等のテーマに分けて約100点を展示した。

3 「昭和の日」記念イベントの開催

「昭和の日（4月29日）」を中心として、記念イベントを開催した。

- | | |
|---|---|
| 1 | 「常設展示室」の無料入場
期 日：昭和の日の4月29日（火）
来場者数：364人 |
| 2 | 「特別企画展のイベントとして」
（女性弁士による無声映画上映会）
期 日：平成26年3月30日（日）
（紙芝居、大道芸、昭和の遊び等）
期 日：平成26年4月5日（土）～6日（日）
会 場：2階ひろば
来場者数：18,850人 |
| 3 | 「昭和の日」記念特別上映
（昭和館制作オリジナル作品）
「私たちは疎開に行った～戦時下の子どもたち～」
期 日：平成26年4月26日（土）～5月9日（金）
会 場：1階ニュースシアター
来場者数：4,260人 |

4 写真展

「昭和の東京をたずねる」

開催期間：平成26年10月11日（土）～12月23日（火）

会 場：昭和館2階ひろば

展示内容：「昭和の東京」に焦点をあて、昭和10年頃から40年代の情景が感じとれる写真を紹介した。5階映像・音響室前のフロアでは、「東京を描く市民の会」より 寄贈された東京の昭和の情景を伝える絵画も公開した。

来場者数：26,639人
（約416人/1日）



5 写真展

「春らんまん」

開催期間：平成27年3月21日（土）～4月19日（日）

会 場：昭和館2階ひろば

展示内容：「別れと出会いの季節」
「芽吹きへの準備」
「躍動の春」「春満開」
のテーマで春にちなんだ写真を紹介し、春をテーマとしたSPレコードの音源を会場で放送した。

来場者数：14,083人
(約542人/1日)



6 資料公開コーナー

昭和館が収蔵する映像資料・写真資料（5階）・図書資料（4階）を多くの来館者に利用していただくきっかけになることを目的に、1階ロビーの一角にコーナーを設けて、資料を随時公開している。

平成26年度に紹介した資料の各テーマと期間は、以下の通りである。

回数	テーマ	期間
第49回	戦中・戦後の東京歌舞伎座	平成26年 3月11日(火) ～ 5月11日(日)
第50回	親もとをはなれて暮らす ～学童疎開～	平成26年 5月13日(火) ～ 7月13日(日)
第51回	焼けあとからたちあがる人びと	平成26年 7月15日(火) ～ 9月 7日(日)
第52回	スチール写真にみる昭和シネマ	平成26年 9月 9日(火) ～ 11月 3日(日)
第53回	アメリカ人映像プロデューサー が見た日本 ～昭和10年～	平成26年 11月 5日(火) ～ 12月 27日(土)
第54回	日本人とテニス	平成27年 1月 6日(火) ～ 3月 8日(日)
第55回	卒業と入学	平成27年 3月10日(火) ～ 4月19日(日)

注：回数は平成19年度開始以来の通算回数

昭和館入場者状況の推移(平成11年度～26年度)

1

	常設展有料					常設展無料	合計	映像・音響室	図書室	特別企画展	ニュースコーナー	総計
	大人	高校・大学生	小・中学生	ぐるっとパス	小計							
平成11年度	84,620	2,479	3,737	-	90,836	-	90,836	35,236	19,398	31,142	-	176,612
平成12年度	40,457	1,973	10,186	-	52,616	2,914	55,530	27,661	16,370	24,112	-	123,673
平成13年度	36,830	2,396	19,739	-	58,965	3,610	62,575	38,866	20,616	33,903	65,124	221,084
平成14年度	29,847	3,373	19,710	-	52,930	4,016	56,946	39,286	20,622	26,204	112,402	255,460
平成15年度	28,802	2,725	22,713	-	54,240	5,235	59,475	34,328	19,072	28,953	115,594	257,422
平成16年度	29,862	3,140	27,162	-	60,164	5,592	65,756	33,046	19,573	26,920	112,164	257,459
平成17年度	30,288	2,596	29,502	-	62,386	6,265	68,651	35,416	19,449	35,611	124,259	283,386
平成18年度	28,407	2,919	25,504	-	56,830	6,363	63,193	29,225	18,465	35,848	125,484	272,215
平成19年度	26,845	3,611	27,519	-	57,975	7,605	65,580	32,683	17,617	66,280	133,564	315,724
平成20年度	23,469	3,245	31,847	-	58,561	6,082	64,643	32,101	17,270	45,719	119,418	279,151
平成21年度	20,997	2,412	28,736	2,540	54,685	6,059	60,744	29,787	19,898	40,627	115,523	266,579
平成22年度	21,076	2,605	28,051	2,102	53,834	5,194	59,028	28,388	19,011	53,423	105,242	265,092
平成23年度	18,400	3,347	24,067	1,815	47,629	4,868	52,497	28,410	19,130	55,293	88,989	244,319
平成24年度	19,340	2,644	24,419	1,662	48,065	5,206	53,271	33,092	20,984	83,568	99,329	290,244
平成25年度	20,952	3,173	24,932	1,636	50,693	6,284	56,977	32,653	22,013	68,427	126,225	306,295
平成26年度	20,367	3,225	33,335	1,884	58,811	8,524	67,335	37,692	22,523	104,753	138,008	370,311
合計	480,559	45,863	381,159	11,639	919,220	83,817	1,003,037	527,870	312,011	760,783	1,581,325	4,165,026

2 平成26年度利用者実績

(単位：人)

	常設 展示室	映像・ 音響室	図書室	ニューズ シアター	特別 企画展等	合計	特別企画展等内訳
平成26年 4月	3,073	1,803	1,196	16,023	37,063	59,158	4/1 (3/21~4/13) 写真展期間 4/1 (3/15~) 特別企画展期間
5月	3,964	2,782	1,513	7,609	1,952	17,820	~ 5/11 特別企画展期間 5/25 紙芝居定期上演会
6月	2,869	1,835	1,240	5,247	0	11,191	
7月	3,392	1,943	1,327	7,117	1,881	15,660	7/19~ 3館スタンプラリー 7/26~ 特別企画展期間 7/27 紙芝居定期上演会
8月	6,708	2,964	1,822	14,631	14,456	40,581	~ 8/31 3館スタンプラリー ~ 8/31 特別企画展期間
9月	2,999	2,010	1,410	6,544	90	13,053	9/28 紙芝居定期上演会
10月	3,910	2,743	1,437	7,382	13,283	28,755	10/1~ 10/19 佐賀県巡回特別企画展期間 10/11~ 写真展期間
11月	5,528	3,674	1,802	12,541	11,205	34,750	11/23 写真展期間 11/29~ 紙芝居定期上演会 石川県巡回特別企画展期間
12月	12,551	6,741	3,512	25,426	11,503	59,733	~12/7 石川県巡回特別企画展期間 ~12/23 写真展期間
平成27年 1月	6,853	4,103	2,510	8,374	118	21,958	1/25 紙芝居定期上演会
2月	11,954	5,724	3,906	10,075	0	31,659	
3月	3,534	1,370	848	17,039	13,202	35,993	3/21~3/31 (5/10) 特別企画展期間 3/21~3/31 (4/19) 写真展期間 3/22 紙芝居定期上演会
合計	67,335	37,692	22,523	138,008	104,753	370,311	

3 常設展示室入場者数

総数	区分	種別	人数	割合 (%)
67,335人	有料 58,811人	小・中学生	33,335人	49.5
		高・大学生	3,225人	4.8
		一般	22,251人	33.0
	無料 8,524人	小・中学生 (親子割引)	1,832人	2.7
		視察者等	4,978人	7.3
		心身障害者	1,351人	2.0
		未就学児	363人	0.58

(参考) 団体による来館学校数

総数	区分	学校数	割合 (%)
677校	小学校	417校	61.5
	中学校	188校	27.7
	高校	32校	4.7
	専門学校	9校	1.3
	大学	31校	4.5

4 来館団体御芳名

(敬称略)

月 日	団 体 名	人 数
5月 1日	さいたま市立大宮北高等学校 2年生	337名
5月14日	山形市立蔵王第一中学校 3年生	153名
5月15日	三田市立富士中学校 3年生	112名
5月16日	平塚市立大住中学校 2年生	111名
5月17日	羽島市立羽島中学校 3年生	126名
5月28日	関市立旭ヶ丘中学校 3年生	164名
6月18日	富士宮市立東小学校 6年生	117名
6月19日	桐陽高等学校 2年生	163名
7月 6日	うらやすウォーキングクラブ	100名
7月 8日	足立区立古千谷小学校 6年生	118名
8月15日	京都府全国戦没者追悼式参列遺族団	142名
9月 2日	足立区立中川小学校 6年生	111名
9月10日	練馬区立開進第二中学校 1年生	177名
9月17日	名張市立桔梗が丘中学校 2年生	126名
10月10日	江戸川女子中学校 1年生	151名
10月21日	北海道白老東高等学校 2年生	119名
10月31日	府中市立府中第六小学校 6年生	171名
11月 6日	松戸市立相模台小学校 6年生	130名
11月13日	桐蔭学園小学部 6年生	157名
11月20日	荒川区立尾久西小学校 6年生	101名
11月27日	江戸川区立西一之江小学校 6年生	117名
11月28日	三鷹市立北野小学校 6年生	107名
〃	江戸川区立葛西小学校 6年生	147名
〃	桶川市立桶川東小学校 6年生	133名
12月2日	荒川区立汐入東小学部 6年生	105名
〃	静岡市立横内小学校 6年生	104名
12月4日	北区立王子第一小学校 6年生	132名
〃	佐倉市立上志津小学校 6年生	115名
〃	足立区立東伊興小学校 6年生	102名
〃	船橋市立前原小学校 6年生	142名
〃	板橋区立成増小学校 6年生	102名
〃	伊奈町立小室小学校 6年生	147名
〃	カリタス小学校 6年生	107名
12月5日	小金井市立緑小学校 6年生	122名
〃	江戸川区立西葛西小学校 6年生	100名
〃	足立区立東加平小学校 6年生	109名
〃	静岡市立長田東小学校 6年生	184名
12月9日	北区立赤羽小学校 6年生	117名
〃	葛飾区立水元小学校 6年生	119名
〃	江戸川区立東葛西小学校 6年生	150名
〃	品川区立第二延山小学校 6年生	102名
〃	市原市立国分寺山西小学校 6年生	106名
〃	横浜市立田奈小学校 6年生	128名
12月11日	八王子市立松木小学校 6年生	118名
12月12日	小金井市立東小学校 6年生	111名
〃	練馬区立大泉第二小学校 6年生	164名
〃	江東区立枝川小学校 6年生	129名
〃	練馬区立上石神井北小学校 6年生	131名
〃	静岡市立竜南小学校 6年生	135名
12月16日	町田市立小山田南小学校 6年生	102名
〃	品川区立第三日野小学校 6年生	105名
12月17日	横浜市立日吉台中学校 2年生	167名
〃	川口市立上青木小学校 6年生	165名
12月18日	横浜市立生麦中学校 2年生	204名

月 日	団 体 名	人 数
12月18日	横浜市立南山田小学校 6年生	153名
〃	吉川市立関小学校 6年生	133名
〃	取手市立取手小学校 6年生	103名
〃	世田谷区立芦花小学校 6年生	100名
〃	渋谷区立西原小学校 6年生	106名
12月19日	守谷市立松ヶ丘小学校 6年生	101名
〃	都立富士高等学校附属中学校 3年生	119名
12月24日	足立区立新田小学校 6年生	110名
〃	目黒区立東山小学校 6年生	167名
12月25日	足立区立綾瀬小学校 6年生	155名
1月20日	袖ヶ浦市立長浦小学校 6年生	109名
〃	川崎市立日吉小学校 6年生	116名
1月21日	和光市立白子小学校 6年生	140名
〃	桶川市立桶川小学校 6年生	128名
1月22日	川崎市立栗木台小学校 6年生	150名
〃	板橋区立前野小学校 6年生	116名
〃	府中市立府中第一小学校 6年生	128名
〃	世田谷区立喜多見小学校 6年生	111名
1月23日	市川市立南新浜小学校 6年生	100名
〃	川崎市立中野島小学校 6年生	159名
〃	世田谷区立塚戸小学校 6年生	184名
〃	西東京市立向台小学校 6年生	137名
1月28日	成田市立成田小学校 6年生	123名
1月29日	江戸川区立第二葛西小学校 6年生	143名
〃	羽村市立武蔵野小学校 6年生	111名
2月 4日	入間市立扇小学校 6年生	149名
2月 6日	市川市立塩焼小学校 6年生	126名
2月10日	葛飾区立半田小学校 6年生	101名
〃	小平市立小平第三小学校 6年生	111名
〃	調布市立第一小学校 6年生	108名
2月12日	春日部市立粕壁小学校 6年生	147名
〃	横浜市立西寺尾第二小学校 6年生	104名
〃	世田谷区立松丘小学校 6年生	118名
〃	清瀬市立清瀬第三小学校 6年生	107名
〃	八王子市立七国小学校 6年生	154名
〃	府中市立四谷小学校 6年生	101名
2月13日	浦安市立南小学校 6年生	180名
〃	東大和市立第八小学校 6年生	108名
2月17日	クラーク記念国際高等学校 1年～3年生	106名
〃	青梅市立若草小学校 6年生	113名
〃	台東区立富士小学校 6年生	100名
〃	町田市立小川小学校 6年生	105名
〃	墨田区立第二寺島小学校 6年生	109名
〃	町田市立鶴間小学校 6年生	101名
2月20日	市川市立市川小学校 6年生	108名
〃	清泉小学校 6年生	121名
〃	八王子市立宇津木台小学校 6年生	117名
〃	東京学芸大学附属世田谷小学校 6年生	120名
2月24日	杉並区立荻窪小学校 6年生	137名
〃	調布市立若葉小学校 6年生	110名
2月26日	世田谷区立玉川小学校 6年生	139名
3月 3日	横浜市立都筑小学校 6年生	151名
3月18日	都立練馬工業高等学校 1年生	177名

※紙面の都合により、100名以上で来館した団体のみを掲載しております。

5 第13回昭和館見学作文コンクール・厚生労働大臣賞受賞作品

「私達ができること」

高崎市立鼻高小学校 6年 高橋 和音

『この世で一番ムダな事』それは、電気のムダ使いでも、水の出しっぱなしでもありません。私思うに『この世で一番ムダな事』それは、空襲や戦争です。私は十一月の中旬に学校の校外学習で『昭和館』に見学に行きました。そこには、戦中や戦後の資料や、体験コーナーなど戦争にまつわる物がたくさんありました。その中でも一番印象に残っていることは、七階で体験した、『空襲の音』です。銃後の備えと空襲というコーナーで、空襲の音や防空ごうの中の景色などを実際に体験できる場所があり、友達といっしょに入ってみました。すると、いきなり何か近づいて来ているような音や空襲の注意報のような、聞き慣れない音ばかり聞こえてきました。また、爆弾が落ちてくるようなとても恐ろしい音まで聞こえてきました。このような体験をして、私は空襲はとても怖いことがわかりました。今までは体験をしていないのに、ただ空襲や戦争はやってはいけないと思っていたのですが、空襲の再現を体験してやっと空襲の恐ろしさがわかりました。「ドーン」と最後に大きく響く音がした時、自分達の近くにとっても大きな爆弾が落ちてくるような気がして、私も、友達も空襲の恐ろしさを思い知りました。また、防空ごうの中の景色も、うす暗く、とてもせまくて、これから何か悪い事が起こる予感がしてきました。その時、このようなとても恐ろしい思いを毎日のようにしてきた当時の人達の気持ちになって考えてみました。私達が空襲の音などを再現されたコーナーで感じたことの他に、いつ戦争が終わるのかわからず、こんな恐ろしい日々がいつまでも続くのかもしれないという恐怖と自分が今、死んでしまうかもしれないという恐怖を感じながら過ごしていたのだと思います。また、家族や親せきが戦地へ行って、そこでの無事を祈る気持ちなど、たくさんの不安をかかえて生きていたんだと思いました。そこで私は、今、自分にできる事を考えました。まず一つ目は戦争で体験された方々に思いをはせること、二つ目は私達が平和の大切さを人々に発信していくことです。過去は変えることはできないけど、未来は私達の手で変えることができます。また私達日本人は、太平洋戦争の経験を他の国々に伝えていく使命があります。今回昭和館に行った事を、ただの校外学習でのできごとにとせず、十年後、二十年後の未来で戦争を起こさせないような活動ができるように努力していきたいです。

6 第7回昭和館高校生ポスターコンクール入賞作品の紹介 <入賞作品（優秀賞以上）>



最優秀賞
兵庫県立明石高等学校
太田 琴
昭和の暮らし



優秀賞
岐阜県立岐阜総合学園高等学校
大平 育歩
昭和の20年頃の暮らし



優秀賞
小松原女子高等学校
保坂 淑羽
戦中の家族



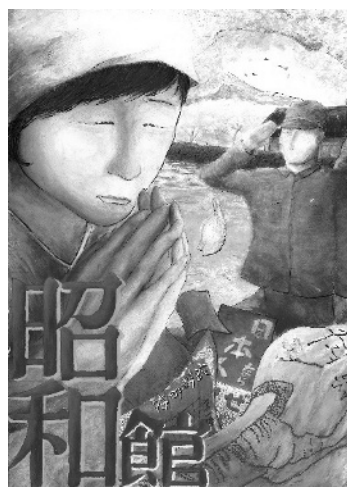
優秀賞
広島県立高陽高等学校
紀川 夏奈子
昭和の家族～憩いの時間



優秀賞
富山第一高等学校
新原 葵
昭和の暮らしと発展



優秀賞
富山第一高等学校
岩竹 稚菜
昭和の洗濯



優秀賞
千葉県立我孫子高等学校
久米 添友
昭和の営みと苦衷の祈り



優秀賞
福岡県立折尾高等学校
西川 薫
昭和の一コマ

7 施設概要

設立趣旨

昭和館は、戦没者遺族に対する援護施策の一環として、戦没者遺族をはじめとする国民が経験した戦中・戦後の国民生活上の労苦に係る歴史的資料・情報を収集、保存、展示し、後世代の人々にその労苦を知る機会を提供することを目的として設立された。

具体的には、当時の国民生活の姿を伝える実物資料の展示事業、図書・文献及び映像・音響資料の閲覧事業並びに内外の資料館の概要等に関する関連情報提供事業等の諸事業を進めることにより、戦中・戦後の国民生活上の労苦を様々な視点から総合的に伝えていくこととしている。

昭和館建設の経緯

昭和54年に、財団法人日本遺族会から、戦没者遺児への慰藉のため、「戦没者遺児記念館（仮称）」を建設して欲しいという要望が、当時の橋本厚生大臣に提出された。

これを契機として、戦後に生まれた世代が国民の過半数を占め、今日の繁栄の礎となった戦没者の遺族をはじめとする国民が経験した戦中・戦後の国民生活上の労苦を後世代に伝えることを目的に、戦没者遺族に対する援護施策の一環として、各界有識者の参加のもと、「戦没者遺児記念館（仮称）」建設の検討が進められた。

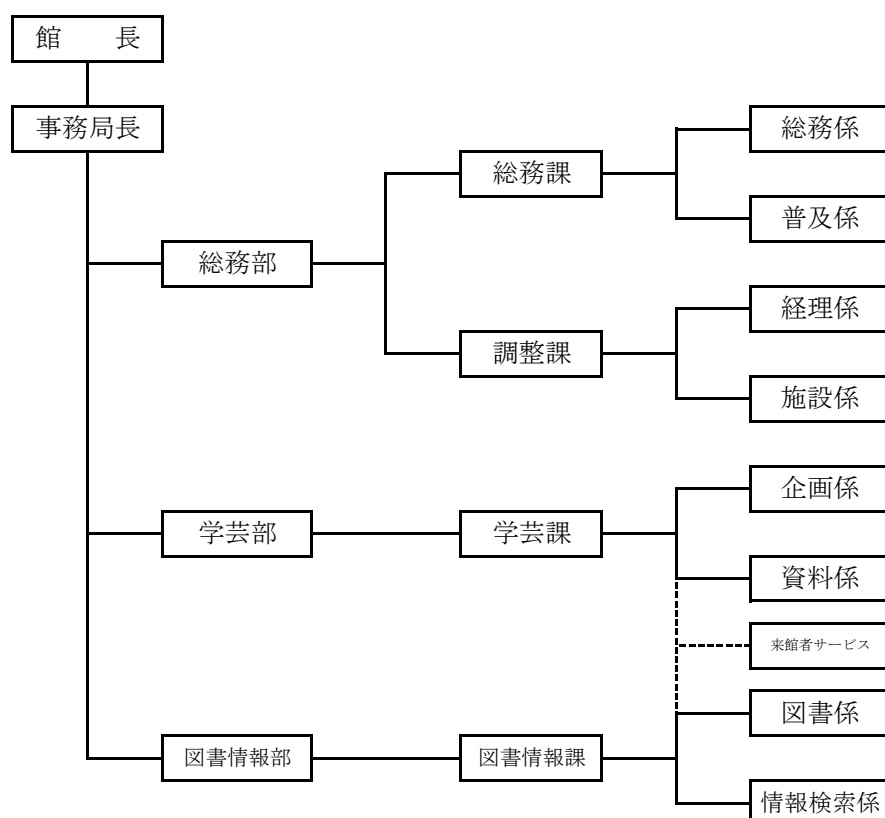
平成5年に、「戦没者追悼平和祈念館（仮称）」として厚生省（当時）予算に建設費が計上された。その後、有識者等からさまざまなご意見をいただき、平成10年12月末に竣工した。館の名称は、「昭和館」とされ、平成11年3月末に開館した。

なお、一般財団法人日本遺族会が厚生労働省から委託を受け、館の運営に当たっている。

施 設

面 積	敷地面積	2,138㎡			
	延床面積	8,514.11㎡			
構造種別	S造（鉄骨造）一部SRC造（鉄骨鉄筋コンクリート造）				
階数	床面積（㎡）	主な用途	収容人員（人）	避難施設	備 考
R階	206.04	機械室		避難階段	
7階	792.05	常設展示室（入口）	135	避難階段	戦中の国民生活
6階	795.37	常設展示室（出口）	142	避難階段	戦後の国民生活
5階	797.61	映像・音響室	63	避難階段	情報検索
4階	798.03	図書室 書庫	52	避難階段	図書閲覧 図書収蔵庫
3階	799.6	研修室・会議室	120	避難階段	特別企画展時は会場に使用
2階	718.61	広場		避難階	（臨時出入口）
1階	1288.42	資料公開コーナー エントランスロビー ニュースシアター 受付・総合案内・事務室	69 34	避難階	昭和館出入口
B1階	1011.42	資料収蔵庫 防災センター 機械式駐車場		避難階段	実物・図書資料収蔵（低温管理）
B2階	1306.96	機械室 機械式駐車場		避難階段	
合計	8514.11		615		

組 織



8 平成26年度寄贈者御芳名

本年度に、資料をご寄贈くださいました方のお名前を記して御礼といたします。

実物資料寄贈者

[個人]

都道府県	寄贈者名
岩手県	井出 榮
福島県	佐藤 満
東京都	浅野 幸雄
〃	足助 勝
〃	荒木 誉達
〃	石川 博
〃	伊藤 一生
〃	井上 明
〃	上田 直子
〃	上田 美津
〃	植松 麻子
〃	榎戸 敏文
〃	大野 幸爾
〃	岡田 安代
〃	岡部 美貴
〃	小川 美智子
〃	片岡 禮子
〃	木村 雅利
〃	小森 ひろ子
〃	芝江 樹世美
〃	白髪 典子
〃	新澤 龍一
〃	関根 小百合
〃	武村 信子
〃	平澤 佳子
〃	前沢 正己
〃	眞下 芳子
〃	松江 きく乃
〃	右山 由子
〃	光森 一誠
〃	持田 晃
〃	山崎 志満子
〃	山田 裕四
〃	横田 達之
〃	吉呑 淳一
〃	米澤 かおる
〃	米田 文彦
〃	渡辺 素子
神奈川県	飯嶋 利一
〃	行天 良雄
〃	島岡 綾子

(都道府県別、順不同、敬称略)

都道府県	寄贈者名
神奈川県	中條 和子
〃	手塚 幸子
〃	廣田 成子
〃	福井 昌子
〃	水澤 孝幸
〃	宮下 和美
〃	依田 幹雄
〃	渡辺 智子
千葉県	青山 克
〃	大杉 由美子
〃	小川 満江
〃	鶴岡 護夫
〃	林 信子
〃	宮原 作江
〃	森本 二郎
埼玉県	板村 洋
〃	薄葉 恵子
〃	上梶 謙吉
〃	國澤 正和
〃	佐藤 洋子
〃	芝 正洋
〃	田畑 耕一
〃	本多 和子
静岡県	網野 スミイ
福井県	九ノ里 俊一
滋賀県	南井 明彦
京都府	上中 祐介
〃	西村 勝栄
〃	古澤 千鶴子
兵庫県	市川 多恵子
〃	木下 里香
広島県	年永 熙一
福岡県	真鍋 義昭
〃	小林 典代
佐賀県	松尾 美津子
〃	山崎 クリ子
長崎県	藤野 千恵子
熊本県	古場 美恵子
宮崎県	籠原 洋子
鹿児島県	大坪 隆

図書資料寄贈者

[団体]

(都道府県別、順不同、敬称略)

都道府県	寄贈者名
北海道	釧路市立博物館
〃	小樽市総合博物館
〃	北海道開拓の村
〃	アイヌ文化振興・研究推進機構
〃	北海道立文学館
青森県	青森県立郷土館
〃	青森県近代文学館
〃	八戸市博物館
岩手県	盛岡市先人記念館
秋田県	秋田県立博物館
〃	日本ラジオ歌謡研究会
宮城県	東北歴史博物館
〃	仙台市教育委員会 文化財課
〃	仙台市歴史民俗資料館
山形県	米沢市上杉博物館
福島県	福島県立博物館
〃	福島県歴史資料館
栃木県	栃木市女性史研究会あいの会
茨城県	予科練平和記念館
〃	茨城県立歴史館
埼玉県	川越市立博物館
〃	埼玉県平和資料館
〃	武蔵野の空襲と戦争遺跡を記録する会
〃	日本大学広報部大学史編纂課
〃	蕨市立歴史民俗資料館
千葉県	鎌ヶ谷市郷土資料館
〃	国立歴史民俗博物館
〃	城西国際大学水田美術館
〃	女性の日記から学ぶ会
〃	市立市川歴史博物館
〃	野田市郷土博物館
〃	千葉市市民局生活文化スポーツ部男女共同参画課
〃	船橋市郷土資料館
〃	松戸市立教育委員会
東京都	JCIIフォトサロン
〃	NHK放送博物館
〃	板橋区立教育委員会生涯学習課文化財係
〃	板橋区立郷土資料館
〃	家具の博物館
〃	古賀政男音楽文化振興財団古賀政男音楽博物館
〃	出光美術館
〃	海原会
〃	大田区立郷土博物館
〃	お札と切手の博物館
〃	株式会社今人舎
〃	偕行社
〃	生命保険協会
〃	株式会社金の星社
〃	株式会社文原書房
〃	株式会社吉川弘文館
〃	北区飛鳥山博物館
〃	北区教育委員会生涯学習推進課
〃	宮内庁書陵部

都道府県	寄贈者名
東京都	興安街命日会
〃	宮内庁区内公文書館
〃	國學院大學研究開発推進機構学術資料館神道資料館部門
〃	國學院大學大学院日本史学専攻大学院
〃	くにたち郷土文化館
〃	東京都人権啓発センター
〃	野球殿堂博物館
〃	吉田秀雄記念事業財団
〃	昭和女子大学光葉博物館
〃	杉並区立郷土博物館
〃	杉並区立郷土博物館分館
〃	すみだ郷土文化資料館
〃	墨田区総務部総務課庶務係
〃	政治経済研究所東京大空襲・戦災資料センター
〃	多摩市文化振興財団 パルテノン多摩
〃	東京都歴史文化財団 東京都江戸東京博物館
〃	全国疎開学童連絡協議会
〃	総務省大臣官房総務課管理室
〃	大正大学 学芸員課程
〃	台東区教育委員会
〃	コスモ21
〃	水交会
〃	玉川大学教育博物館
〃	中央史学会
〃	中国残留孤児援護基金
〃	千代田区立千代田図書館
〃	千代田区立日比谷図書館文化館
〃	新宿区立北新宿図書館
〃	東京都三多摩公立博物館協議会
〃	東京都写真美術館
〃	東京都博物館協議会
〃	学童疎開資料センター(旧「全国疎開学童連絡協議会」)
〃	たばこと塩の博物館
〃	調布市郷土博物館
〃	道具学会事務局
〃	豊島区文化商工部
〃	豊島区立郷土資料館
〃	特攻隊戦没者慰霊顕彰会
〃	新島村博物館
〃	日本カメラ博物館
〃	練馬区立石神井公園ふるさと文化館
〃	財団法人日本武道館
〃	日本郷友連盟
〃	八王子市市史編さん室
〃	文化庁国際課国際文化交流室振興係
〃	文京ふるさと歴史館
〃	防衛省防衛研究所戦史研究センター史料室
〃	物流博物館
〃	満鉄会
〃	三鷹市山本有三記念館
〃	港区立港郷土資料館
〃	三菱レイヨン株式会社
〃	民音音楽博物館(民主音楽協会)

都道府県	寄贈者名
東京都	東京家政学院生活文化博物館
〃	東京家政大学博物館
〃	明治大学史資料センター
〃	明治大学博物館
〃	日本ユネスコ協会連盟 世界遺産・国際教育グループ
〃	靖國神社社務所
神奈川県	JICA海外移住資料館
〃	大磯町郷土資料館
〃	小田原市郷土文化館
〃	小田原城天守閣
〃	神奈川近代文学館
〃	神奈川県立歴史博物館
〃	川崎市市民ミュージアム
〃	馬事文化財団 馬の博物館
〃	女子美術大学美術館
〃	平塚市博物館
〃	横須賀市総務部総務課
〃	横浜みなと博物館
〃	横浜市史資料室
〃	横浜都市発展記念館
新潟県	新潟市歴史博物館
富山県	富山市郷土博物館
〃	富山市売薬資料館
石川県	石川県立美術館
〃	石川県立歴史博物館
福井県	福井県立歴史博物館
長野県	飯田市美術博物館
〃	上田市立博物館
〃	旧制高等学校記念館
〃	松本市立博物館
静岡県	島田市博物館
〃	浜松市博物館
〃	沼津市歴史民俗資料館
〃	焼津市歴史民俗資料館
愛知県	安城市歴史博物館
〃	岡崎市美術博物館
〃	戦争と平和の資料館ピースあいち
〃	名古屋市博物館
〃	半田市立博物館
〃	瀬戸蔵ミュージアム
滋賀県	滋賀県平和祈念館
京都府	京丹後市教育委員会 文化財保護課
〃	京都国立博物館
〃	京都市学校歴史博物館
〃	立命館大学国際平和ミュージアム
大阪府	往生院民具供養館
〃	大阪歴史博物館
〃	堺市立平和と人権資料館(フェニックス・ミュージアム)
兵庫県	明石市立文化博物館
〃	赤穂市立歴史博物館
〃	朝日新聞大阪本社代表室(教育総合本部)
〃	神戸女子大学史学会

都道府県	寄贈者名
奈良県	奈良県立民俗博物館
和歌山県	和歌山県立博物館
〃	和歌山県立紀伊風土記の丘
〃	和歌山市教育委員会
〃	和歌山市立博物館
岡山県	津山郷土博物館
〃	岡山シティミュージアム
広島県	広島県立歴史博物館
〃	呉市海事歴史科学館
〃	広島平和文化センター
〃	広島県立歴史民族資料館(みよし風土記の丘)
山口県	下関市立考古博物館
〃	周南市美術博物館
香川県	高松市役所 人権啓発課 平和記念係
愛媛県	愛媛県歴史文化博物館
〃	坂の上の雲ミュージアム
高知県	高知市立自由民権記念館
〃	土佐山内家宝物資料館
福岡県	北九州市立自然史・歴史博物館
〃	福岡市総合図書館文学・文書課
〃	福岡市博物館
〃	福岡市美術館
〃	久留米市立草野歴史資料館
佐賀県	有田町歴史民俗資料館
〃	佐賀県立佐賀城本丸歴史館
長崎県	長崎県文化観光物産局文化振興課
〃	長崎歴史文化博物館
大分県	大分市歴史資料館
〃	大分県立先哲史料館
宮崎県	みやざき歴史文化館
鹿児島県	鹿児島県歴史資料センター 黎明館
沖縄県	沖縄県文化振興会 公文書管理課
〃	沖縄県平和祈念資料館
〃	対馬丸記念会 対馬丸記念館
〃	ひめゆり平和祈念資料館
タイ	Bangkok Metropolitan Administration

図書資料寄贈者

[個人]

都道府県	寄贈者名
北海道	出水英哉
〃	山本竜也
茨城県	水谷武一
〃	宮内大輔
埼玉県	青木和哉
〃	石塚美和子
〃	上梶謙吉
〃	菊地正浩
〃	佐藤洋子
〃	本多和子
千葉県	青山克
〃	浅野朋美
〃	森元美登里
東京都	浅野幸雄
〃	伊藤泰子
〃	井上孝
〃	上田美津
〃	梅沢明子
〃	大島満吉
〃	小川美智子

都道府県	寄贈者名
東京都	片岡禮子
〃	神崎希美代
〃	岸本葉子
〃	小池誠
〃	塩川文代
〃	新澤龍一
〃	鈴木春子
〃	高橋雅夫
〃	武村信子
〃	浜井和史
〃	原田全通
〃	露谷龍夫
〃	前沢正己
〃	光森一誠
〃	百瀬滋子
〃	山口治男
〃	山崎きよ子
〃	吉呑淳一
〃	米澤かおる
〃	渡辺素子

(都道府県別、順不同、敬称略)

都道府県	寄贈者名
神奈川県	井上弘
〃	加納昌子
〃	亀尾覺
〃	櫻井光夫
〃	寺尾絢彦
新潟県	峰村剛
富山県	須山盛彰
福井県	九ノ里俊一
岐阜県	和合晴幸
静岡県	竹島正義
三重県	竹内令
大阪府	遠藤義人
〃	福山琢磨
兵庫県	今田耕二
和歌山県	桜井志代子
広島県	中尾裕子
福岡県	蒲地登
〃	真鍋義昭
熊本県	古場美恵子
鹿児島県	三森タエ

映像・音響資料寄贈者

[個人]

都道府県	寄贈者名
埼玉県	板村洋
千葉県	進藤章
東京都	松江きく乃
東京都	前沢正己

都道府県	寄贈者名
東京都	片岡禮子
〃	梅沢明子
神奈川県	廣田成子
神奈川県	島岡綾子

(都道府県別、順不同、敬称略)

都道府県	寄贈者名
神奈川県	飯嶋利一
〃	手塚幸子
長野県	袖山八代江

映像・音響資料寄贈者

[団体]

都道府県	寄贈者名
東京都	くにたち郷土文化館
東京都	厚生労働省援護局
アメリカ	ラファイエット大学

昭和館館報 第16号 (平成26年度)

平成27年7月発行

編集発行 昭和館

〒102-0074 東京都千代田区九段南1-6-1

電話 03 (3222) 2577